

I期の分娩誘導の面からすれば、歩行とか妊婦の自由な体位が望ましいと思いますが、先生の病院での第I期の管理法について教えて下さい。

質問 (東京・東京マタニティー・クリニック)

柳田洋一郎

① 初産の約1/3が「ひどかった」とアンケートに対して答えたが「ひどかった」のもう少し具体的内容について教えて下さい。

回答 (宮城・仙台市向仁会永井病院) 永井 宏
分娩椅子に移行する迄の過ごし方について

分娩第I期はテレメーター使用直接モニタリング下で歩行を心掛けて居る。その際、出来るだけ家族と一緒に過ごす様に配慮する。

産科手技について。

鉗子、吸引分娩、骨盤位分娩手術いずれも従来と変るものではない。

柳田先生へ。

初産の人は対比する経験がなかった様だ。他人にすすめる、又は次回も希望するとの答が80%を越すことから考えると、座位は楽なのだと思う。

317. 座位分娩に対する臨床的検討

(岡山大)

中村 淳一, 満谷 寛, 赤堀周一郎
江尻 孝平, 江口 勝人, 工藤 尚文
関場 香

仰臥位分娩から座位分娩の世界的変遷の傾向は医学的有用性のみならず、各国の国民性にも合致したものである必要がある。そこで座位分娩が我国の産婦の肉体的、心理的に与える影響および新生児に及ぼす影響について検討した。

われわれは分娩台傾斜角度が自由に調節できる分娩椅子を使用して、産婦137例(座位群)および仰臥位分娩250例(仰臥位群)を対象とし、①産婦が最も好む分娩台角度、②いきみ易さ、③心理的背景、④分娩第2期所要時間、⑤出血量、⑥会陰裂傷、⑦吸引分娩の頻度、⑧新生児仮死の頻度、⑨産瘤および骨重積の発生頻度について検討した。

産婦がいきみ易いとした分娩台傾斜角度は45度以上で、その大半は60~70度であった。経産婦座位群の77%は、前回の仰臥位分娩よりいきみ易いと回答し、さらに初産婦についても分娩時の感想は極めて歓迎されるべきものであった。また分娩時に自分の胎児が誕生してくる所を見たいかどうかにつき調べたところ、見たいと希望した産婦は67%を占め、見た産婦全員が強い

満足感を示した。すなわち座位分娩は、自分の子供が生まれてくるのを見守ることができ、母性愛の芽生えや、Mother infant bondingの上にも好結果が期待できると考えられた。次に初産婦座位群の分娩第2期所要時間は、82%が45分以内であり、仰臥位群に比し有意に短縮し、吸引分娩の頻度も減少傾向を示した。出血量、会陰裂傷については両群に差を認めなかった。新生児仮死発生率は、仰臥位群の4.1%に対し、座位群では2.5%であった。産瘤および骨重積の発生は座位群で減少した。

座位分娩の本邦産婦についての有用性を検討した結果、座位分娩は産婦の心理的、肉体的負担を軽減させ、分娩時における新生児合併症も少なく極めて合理的な分娩方法であることが認められた。

質問 (埼玉・済生会川口総合病院) 岡村 泰

1. 座位で分娩が長時間に及んだとき、妊婦が腰を動かしたがる様なことはないか。

2. 若し、妊婦が腰を動かした位置で、分娩を介助するときには、会陰が台座のイスにかくれたりして、介助操作がやりにくくなったり、不潔になつたりすることはないかどうか。御教え下さい。

回答 (岡山大) 江尻 孝平

1. 腰痛については、分娩台の傾斜角度を変えることができ、むしろ緩和されると思います。

2. 清潔な薄い紙のシーツを腰の所までしていますので、不潔になることはありません。

質問 (宮城・仙台市向仁会永井病院) 古賀 詔子

1. 貴院における出血量は差がなかったか否か。

2. 座位を好まない産婦がいたか否か。

回答 (岡山大) 江尻 孝平

1. 対照。20歳の産婦で、分娩誘発例、前回帝切CPDの疑いなどは除外したものにしている。私事かもしれませんが、出血量において、座位分娩と仰臥位分娩の間で差を認めませんでした。

質問 (大分医大) 合阪 幸三

鉗子、吸引分娩、あるいは骨盤位分娩みとりあつかう場合も座位で行っておられるのでしょうか。その場合の角度は、やはり正常分娩をとりあつかう際と同じくらいでしょうか。また実施にあたって不都合はございませんか。

回答 (岡山大) 江尻 孝平

吸引分娩は、分娩台をおこしたそのままの状態で行なう事ができます。

会陰保護についても、支障はありません。